

遠えん

山ざん

歐陽おうよう

修しゅう

山さん

色しよく

遠えん

近きん

無な

山やま

看み

終しゆう

日じつ

行ゆ

く

峰ほう

巒らん

隨ずい

知しよ

改あらた

まり

行客こうかく

名な

も

知し

ら

ず

【作者】歐陽脩（一〇〇七〜一〇七二年）北宋の時代の政治家。字は永叔（えいしゆく）、醉翁と号した。宗の永宝（江西省吉安市）の人。中国では珍しく姓が二

字で脩が名である。江西省は優れた文人・政治家が多い。王安石・曹鞏・黄庭堅・楊万里・文天祥など総て江西省の人である。二十四歳で進士に合格累進して参知政事（副宰相）にまでなったが、神宗の時、宰相王安石の新法に反対して青洲の知事に左遷され、晩年は潁州（えんしゆう）に引退して著述に励み、彼の「名臣言行録」は我が国にも伝えられ、武士の必読書と言われた。左遷されるなどの挫折は有ったものの、彼は有能な政治家であったばかりでなく、文学者としても偉大な足跡を残し、文章改革を完成させると共に「新唐書」「新五代史」等の史書も完成させた。韓愈・柳宗元・蘇軾らと共に唐宗八大家の一人として活躍し、六十六歳で没し「文忠公」と諡された。

【語釈】*山色…山の景色。気配。 *看…手をかざして見る。手と目とから成る会意文字。「見（みるともなしにみる）」とは異なることに注意。 *峯…山の峰、区別すれば「峰」は、頂きの尖ったもの。「巒」は丸い峰。 *行客…旅人。登山者。

【通釈】山の色合いは皆同じで遠近は解らない。一日中山を見ながら歩く。

峰の姿は至る所で変化して見える。旅人は山の名前も知らない。

【備考】遙かに遠く山を眺め、その美しさを詠った詩